

平成 26 年度第 3 回日本生理学会教育委員会議事録 (委員内詳細版)

日時 平成26年11月2日 10時00分～12時00分
会場 東京慈恵会医科大学 高木会館 5階 D会議室
出席者 石松 秀 (西九州大)、奥村 敏 (鶴見大)、奥村 哲 (静岡理工科大)、久野 みゆき (大阪
市大)、鯉淵 典之 (群馬大)、小山 なつ (滋賀医大)、椎橋 実智男 (埼玉医大)、鈴木 敦
子 (健康科学大)、中島 昭 (藤田保健衛生大)、深田 優子 (生理研)、松田 哲也 (玉川
大)、南沢 享 (慈恵会医大)、山下 俊一 (女子栄養大 (編集広報委員リエゾン))
(以上50音順)

欠席者 渋谷 まさと (女子栄養短大)

オブザーバー 渡邊 マキノ (順天堂大 (認定委員リエゾン))

議長 鯉淵 典之 委員長 書記 奥村 哲

【報告事項】

1. 前回議事録承認 (奥村哲委員、資料1)
平成 26 年 7 月 20 日開催の平成 26 年第 2 回教育委員会議事録が承認された。
2. 生理学会理事会報告について (鯉淵委員長、資料2)
カエル捕り名人の大内一夫氏の永年の生理学教育への貢献に対して学会感謝状を贈呈することが確認された。
3. 生理学クイズ大会参加報告について (南沢委員、資料3)
南沢委員より、資料3に基づいて2014年8月20-21日にマレーシアのマラヤ大学で行われた第2回国際生理学クイズ大会 (Inter-Medical School Physiology Quiz) の参加報告がなされた。参加校数は80校以上。筆記試験による予選で約半分を選抜し、その後思考型の口頭試問が行われた。日本の学部における基礎医学教育においても英語の活用力をさらに高める必要があることが指摘された。
4. 日本生理学会雑誌「Education」について (久野委員、資料4)
教育のページの2015年3月号までの内容・執筆者は概ね決まっていることが報告された。今後、研究指向学生のコンソーシアムの事例、国際生理学クイズ大会等についての記事を掲載していくとともに、心理分野や研究者倫理の問題についての記事を検討していくことが確認された。また日誌の一部電子化後も、「Education」のページは冊子体の方に残る (電子化される) ことが報告された。
5. FAOPS 2015 Education Workshop について (鯉淵委員長、資料5)
資料5に基づいて、鯉淵委員長から2015年11月23-25日にタイ、バンコクにおいて行われるFAOPS 2015の現時点のプログラムの概要について報告された。2019年には神戸開催が計画されていることから、教育委員会としてもプログラム委員の推薦などの準備していくことが確認された。
6. 生理学エドゥケーター認定制度委員会について (中島委員、資料あり)
中島委員 (エドゥケーター認定制度委員会委員長) より、9月20-21日に順天堂大学において行われた認定委員会における認定状況と、11月2日の理事会に認定者リスト提出した後、2015年1月の認定証発行にむけた今後の認定作業、必要経費の概要等についての認定制度委員会内での検討内容が報告された。

7. 生理学会、新 HP の進捗状況について（山下リエゾン委員、プロジェクター資料あり）
 山下委員（女子栄養大（編集広報委リエゾン））より、学会、新 HP の進捗状況について、配布資料および準備用非公開サイトの投影によって報告された。新 HP においては、生理学教育、エドゥケーターの内容がトップページのバナーに並ぶ他、アウトリーチの為のコンテンツへのリンクも見やすくなる。
8. その他
 アウトリーチ活動については、さらに学会内で募集を行うことが確認された。

【討議事項】

1. 神戸大会での教育プログラムについて（石松委員、鯉淵委員長 資料6）
 教育プログラムのプログラム、当日の役割分担、模擬学生の参加状況、ポスター・チラシの印刷についてほぼ確定した（プログラム詳細は12月中旬に最終確定予定）。ポスター（ランチョンセミナーの内容は含まない）は例年どおり200部印刷し、大学および医療系専門学校に送付することとした。また当日の動線の確認は前日行うこと。アルバイトはJCSに依頼中であること。印刷資料の手配の確認。当日の詳しい役割分担は石松委員と椎橋委員を中心に今後詳細をつめることが承認された。
2. 生理学MCQ問題集（文光堂）改訂について（鯉淵委員長 資料7）
 鯉淵委員長より資料7に基づいて改訂の方針が説明され以下の概要を決定した。
 生理学MCQの改訂について
- ・A4 > B5版 1色刷り 624>>400問程度にする
 - ・問題の精選 CBTの流れに従って、想起型より解釈の問題を増やす
 - ・できるだけ値段を下げる。印税（10%）は 生理学会本体の収入にする
 - ・仮書名 : 日本生理学会教育学会編 生理学問題集 CBT準拠
 - ・ワーキンググループ（南沢委員がとりまとめ）を中心に問題の取捨選択、作成、解説執筆を行う
3. 解剖生理学クリアブック（医学書院）改訂について（鯉淵委員長 資料8）
 鯉淵委員長より資料8に基づいて改訂の方針が説明され以下の概要を決定した。
- ・目次（章立て）および執筆者案が示され新しく入る第16章を除いて承認された
 - ・想起型を中心に、問題の精選をしていくことが確認された
 - ・今後、とりまとめ担当の渡邊マキノ先生中心に問題を集め、集まり次第ブラッシュアップ委員会を開催する。解剖部分については、順天堂大学の坂井教授に校閲をお願いする（依頼済み）
 - ・著作権は生理学会。印税（10%）は生理学会本体が半分。残りを著者で按分
4. 教育プログラムの今後について（鯉淵委員長）
 鯉淵委員長より、将来計画委員会からの要望として以下の内容が説明された。これについて自由討論を行い、今後、継続審議の課題としていくことを決定した。
1. 神戸以降の大会について、教育プログラムをプレ開催とすることの是非について
 プレ開催とする意図は理解するが、教育委員会としては慎重である。
 2. 英語での発表、講義についてのシンポジウム開催を検討することになった（例 Carol 先生）。
5. 今後の活動について（鯉淵委員長、資料なし）
 他学会との連携やFAOPSの準備等について、自由討論を行った。